

日本のロックシーンを2年先取り!?

6thシングル『風船ガム』のスマッシュヒット（と、PVでのスーツ姿）も記憶に新しい中、キャプストのニューシングル『恋するフレミング』が10/18にリリースされる。ロックサウンドを全面に出しつつも、ポップさも煌びやかさも遊び心もバランスよく散りばめられ、まさに今のキャプストらしさを映し出したキャプスト的キラ・チューン。さあ、3人が打ち出すロックで全身が痺れるようなビリビリ感を体感して……恋をしようぜBABY!

キャプテンストライダム

●夏に出張イベントで印象に残っているアーティストと何をしますか？

永友：マキシムム ザ ホルモンとか10-FEETを観たんですが（※1）、ほぼ同世代ってこともあって印象に残っています。それぞれ個性とかカラーがはっきりしてよかったですね。刺激になりました。

●なるほど。3月にアルバム「10DREAMS」をリリースし、6月にリリースしたシングル『風船ガム』でスマッシュヒットを飾り（※2）、9月から3か月連続リキッドワンマンもあるという重要な時期ですよね、今。

永友：そうですね。さっきのホルモンと10-FEETの話じゃないんですけど、バンドを4〜5年やってるとそれそれ個性がはっきりしてくる時期だと思えますよね。そういう意味でも、ますます次に出す作品が重要だと思えます。

●改めてキャプスト色をはっきり見せないといけな、みたいな感じですか？

永友：そう。自分たちに何が出来るのかをはっきりと打ち出していく作品にしたいとは思えない、という想いで今回のシングルは挑みました。とにかく自分たちのできる曲をたくさん作ろうと、春先くらいからずっとプロボロをやって10曲くらい形になったんですね。聴いてみたらいい感じなんですけど、デコボコしてない曲ばかりです。要するに優等生揃いでいい子ばかりなんですけど、もっと際立った個性がほしくなって。だから、そこから考え直して7月にまた作り始めます。それで最初にできたのがこの『恋するフレミング』だったんです。

●ということは出来たてホヤホヤですね。考え直した時、どういう曲を作ろうと考えたんですか？

永友：イメージしたのは、ライブの時にみんなで大合唱できる歌。コール&レスポンスとか、スケールの大きいメロディがある曲にチャレンジしようというのが出発点でした。

●はい。

永友：そういうテーマでフレーズを一生懸命考える作業は、今の自分たちに似合うものと考えたということだと思うんですよ。今の自分たちが歌いたい言葉や、自分たちに似合うフレーズがピタッとくるはずだから。

●なるほど。

永友：あと曲作りでキーワードとなったのが、AC/DC（※3）のようなハードロックだったんですよ。もともとAC/DCが好きだったこともあって、楽しんで曲作りできましたよ。

●「コール&レスポンス&ハードロック」という。なぜこのタイミングでAC/DCが出てきたんですか？

永友：昔から大好きだということ、前のアルバムの「10DREAMS」とはまた違うバンドサウンドを前面に出したかったんです。「イントロからかっこいい！」っていうものになりたいと思って、「やっぱり演奏がかっこいいロックと言えばハードロックだろう」とか。

●そこでベタになることは怖れなかったんでしょうか？ ハードロックは決してスタイリッシュとは言

えないと思うんですが。

永友：そういう心配も少しはありましたけど、それよりも最初に『恋するフレミング』を作ってバンドで合わせた時、2年くらい先取りしてる感じがしたのですよ。

●は？ 先取り？

永友：2年経ったら日本のロックシーンはみんなこうなってるんじゃないか、と。だから逆に早すぎたかなって思う（※4）。

●（笑）。しかしこの曲、6分13秒でめっちゃ長いですね。

永友：過去最長ですね（※5）。ギターソロとか1分くらいありますよ（笑）。でも、この長さが必要だったんですよ。「イントロは4段階くらいで盛り上がっていく」みたいなハードロックのセオリーが自分の中にあるって、それに則っていくとどうしても6分くらいになっちゃうんですよ。やるならとことんやりたかったんです。

●そこで改めてバンド観を見直すことができました？

永友：割りとここ最近のギターロックシーンだと、コード感でいくのが主流で。僕らもそういう流れもあったんですけど、今回はフレーズというかリフレインでバンド感を出したいなって思ったんです。だから言葉もリフにしようと思って『恋をしようぜBABY!』というフレーズを繰り返したり（※6）。

●なるほど。「恋のフレミング」はロックなサウンドだけでなく、ポップな部分も煌びやかな部分もうまくバランスが取れている、まさに今のキャプストを表現している1曲だと思いませんか？

永友：そうですね。と言っても、別にそういう計算はしてないんですけど（笑）。

●で、曲名も相変わらずさぶざぶですが（笑）。

永友：身も蓋もないんですけどAC/DCサウンドを目指して作ったから、電気に関係した仮タイトルをつけようと思って、『フレミングの法則（※7）』という電気の法則を思い出して、『フレミング』だけじゃタイトルっぽくないから『恋する』を仮つけたんです。歌詞はタイトルを先に決めて、そこから発想していったという書き方ですね。

●じゃあ歌詞は実体験ではないんですか？

永友：実体験の部分もあるんですよ。「腹が減るぜ涙がこぼれる」とか。

●泣きながらお腹グーグー鳴らしてたんですか？

永友：泣いたり感情が激しく動いた後で腹が減りますよ。例えば、失速で食欲がなくなったとしても眠れないじゃないですか。

●はい。

永友：人間の、そのたぐましが好きなんですよね。「腹が減る」というキーワードは僕の中ではすごく重要なんです。「影のない男」でも「メシを食う」ってフレーズがありましたけど、ああいうテーマと似てます。

●なるほど。そしてカップリングの「明日の真下」は久保田洋司さんが作詞されてますね。

<http://www.captain-a-gogo.com/>

Dr./Cho. 菊住守代司
Ba./Cho. 梅田啓也
Vo./G. 永友聖也



■ebisu LIQUIDROOM マンスリーライブ

10/22（土）SHARK NIGHT

11/18（土）PANTHER NIGHT

■SHOCK TREATMENT TOUR

10/14（土）札幌 bessie hall

10/16（月）名古屋 APOLLO THEATER

10/18（水）広島 NAMIKI JUNCTION

10/19（木）広島 NAMIKI JUNCTION

10/22（日）恵比寿 LIQUIDROOM

10/27（金）福岡 DRUM Be-1

10/29（日）大阪梅田 Shangri-La



7th single 恋するフレミング

Yeah! Yeah! Yeah! Records

AICL-1778~1779

¥1,223 (tax in)

2006.10.18 Release

永友：自分がまったく違う主人公を演じてるような歌にしたいと思ったんです。久保田さんは『10DREAMS』でも手伝っていただいたんです。「メトロのメロス」とかそうなんですけど、物語の主人公がはっきりしてる歌詞を久保田さんに書いてもらって、僕が歌うというパターンがパワーが出ると思って。なので、「明日の真下」もそういう物語路線でお願いしたんですよ。

●確かに「レインボーブリッジ」なんていう言葉、永友くんは使わないですよね。

永友：はい（※8）。

●リリースされた曲を追って聴いていくとキャプストの変化が見れるんです。インディーズの頃は骨太感満載で、メジャーデビュー以降はポップさが強くなり、歌を重視した曲も増えて。

永友：そうですね。

●でも、ライブをずっと観ても揺れ幅はあまり感じないんですよ。リリース作品の幅とは関係なくライブはライブでどんどん骨太になってきて、ライブについては確実に「バンド感」が根柢にどっしりと存在していると感じるんですが。

永友：『10DREAMS』を聴いてライブに来た人から「音源と印象が違う。CDよりもロックな感じ」と言われたんです。

●はい。それは感じるでしょうね。

永友：実は、今回はライブの姿とフレが少なめのにしても思ってた。「恋するフレミング」も「明日の真下」もライブの感じに近づけていこう、という意識で。

●ここ最近、自分たちのライブにより手応えを感じてるんじゃないですか？

永友：うーん、まだまだだなあもんじゃないっていうのはありますよ。理想として、もっとスケールの

大きい曲をやりたいんですよ。でかい会場で演奏するのが見える曲っていうか。例えばOasisって何万人もが集まって聴く感じのスケール感を元々持っている気がするんですよ。

●単純にライブの方法論を議論するということではなく、バンドとしてどういう曲を生んでいくかというレベルの話ですね。

永友：はい。その流れで、「恋するフレミング」は完全にスタジオムロックを狙ったんです。もちろんバンドとしては、いろんなタイプの曲があっていいんですけど。

●いや、絶対にライブ映える曲ですよ。9月から3か月連続リキッドルームでライブがありますが、どんな内容になりそうですか？（取材は9/13）

永友：3回ともテーマを変えて違ったことをやろうと思ってます（※9）。3ヶ月通じていろんな角度からキャプテンストライダムの可能性を見てもらいたいし、自分自身見てみたいですね。楽しみます。

●「恋するフレミング」のレコ発ツアーも同時進行で決まっていますか？

永友：SHOCK TREATMENT（＝ショック療法）TOURという名前は僕が考えたんです。さっきも言いましたけど、今のバンドのテーマは「ピリビリ」と電気に撃たれたような感じなんです。例えば「恋するフレミング」のイントロでジャンプしてギターが入った時の広がりとかを、是非ライブに足運んでもらって生で体感して欲しいですね。感情をも通る越して、ダイレクトに脳まで届くようなビリビリ感をお贈りいたします。

●余談ですけど、今年の夏は何してたんですか？

永友：ほとんどバンドの活動だったんですけど、合間を縫って日々草を育て始めました（※10）。

interview&text：山中毅、assistant：細田聖子

【脳がピリビリするキャプスト註釈】

※1：10-FEETとは7/22のSETSTOCK'06と8/27のSky Jamboree'06で、マキシムム ザ ホルモンとは同Sky Jamboree'06にて共演。ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2006にも9/3(日)は出演しているが、出演日が違うため永友は観ていない。ホルモンのナラちゃんとはもともと交流あり。

※2：シングル『風船ガム』は所属レーベルである風街レコード主催・松本隆による作詞でテレビ東京系アニメ『銀魂-ざんたまー』のエンディング・テーマ。「スマッシュヒット」と言ってもいいくらい売れた。

※3：AC/DC：1973年、ヤング兄弟（アンガス・ヤングとマルコム・ヤング）を中心にシドニーで結成されたハードロックバンド。掃除機の中に書かれた「AC/DC」という文字を見たヤング兄弟の姉が、爆音で楽器を鳴らす彼らを掃除機に例えて名付けられた。そもそも「AC/DC」とは「交流/直流電源」という意味。

※4：たまにこういうロックスターの発言をする永友。彼が本物のロックスターなのかどうかは今後のがんばり次第というところ。

※5：長い。

※6：ここ最近のギターロックシーンを意識していると思わせているが、ここ最近のギターロックバ

ンドは「恋をしようぜBABY!」なんて唄わない。

※7：フレミングの法則：ジョン・アンブローズ・フレミングが考案した法則。「フレミングの左手の法則」と「フレミングの右手の法則」がある。今回の読者プレゼントのポロイドで永友が実演しているのは左手の法則。

※8：デートで行ったことは当然無い。「通ったことあります」と誇らしげに言う永友。

※9：3ヶ月連続 ebisu LIQUIDROOM：それぞれEAGLE NIGHT、SHARK NIGHT、PANTHER NIGHTと名付けられた3ヶ月連続ライブ。それぞれイベント名は1981年からテレビ朝日系列で放送された特撮テレビドラマ『スーパー戦隊シリーズ』の第5作『太陽戦隊サンバルカン』の主人公の名前（バルイーグル、バルサンヤーク、バルパンサー）からの引用。サンバルカンはヘルサターン総統が率いる機械帝国ブラックマグマと闘う特殊部隊。

※10：『スペパン中学』で交流を深めたいとうせいで氏に「留守がちなミューズちゃんでも簡単に」と罵られて日々草を育て始めた永友。名前は「ニッチ」。この夏、ソアーから帰ってきたら枯れていた。

※11：そして、この夏最大の珍事と言え、永友が遂に携帯電話を持ったこと。